



第54号
(発行所)
 真宗大谷派
 松岡山廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
<E-mail>
 matsuoaka@kosanji.or.jp

彼岸にて

「お盆には、浄土から亡き人が帰ってくる。そんな感じでお盆の日々をおくつてもいいんじゃないだろうか。そりゃあ、確かに親鸞はそんなことは言わないが。亡くなった愛すべき人があの世からしばらくの間、帰ってくるというほうが風流というか、風情があるように思う」

一 昨年の学習会で先代住職はそのようなことを述べられた。

自分の人生死んだらおしまい。死後の世界なんてあるわけない、という思想がほとんどを占める日本。現代人の、「死んだら無になる」という簡単な決めつけが、さらに命の尊さを軽くしているように思う。

人が亡くなると、頭の中で「あの人は死んだ」という記録がされるだけ。

あの世から亡き人が帰ってくるという感覚とは無縁の現代人。少しは亡き人を偲しのび、自分の命について考えてみて

はどうだろうか。

親鸞聖人は臨終間際に次のようにおっしゃられたと言われています。

我が歳きはまりて、安養浄土げんきに還歸すといふとも、和歌うらわの片男浪かたおなみの寄せかけ寄せかけ帰らんに同じ。

一人居て喜ばは二人と思ふべし。二人居て喜ばは三人みたりと思ふべし。その一人いちじんは親鸞なり。

我のりなくも法は尽きまじ和歌の浦
 あをくさ人のあらんかぎりは

愚禿 親鸞 満九十歳

【現代語訳】

私、親鸞の寿命も尽きることになって安らかな浄土に往生するが、和歌山の片男波海岸の波が寄せては返し寄せては返しするように、一度は浄土に参るがまた帰ってきて念仏の教えを伝えるのだ。

だから、一人で念仏するなら二人いると思いなさい。二人で念仏するなら三人いると思いなさい。その一人とは私、親鸞です。

仏説阿弥陀経に登場する仏弟子

伊藤和美

「伽留陀夷」
かるだい

このお弟子さんは諸説がありますが、その一つを紹介
します。

伽留陀夷は、色が黒く、別名、黒光と呼ばれていま
した。毒蛇に噛まれて肌が黒くなったといわれています。

お釈迦様とは同じ年です。

お釈迦様がまだ子供で王子様だったころ、お付き人を
しておりました。当時のお釈迦様は人生について深く深
く悩んでおられました。そんなお釈迦様が城を出て、僧
侶として出家しないように見張りの役をしておりました。

お釈迦様は伽留陀夷に尋ねます。この無常の世の中を
どのようにすれば本当の幸せをつかめるのか、いくらお
金や権威があつても全然幸せと思わないではないか、と。
そんな問いに伽留陀夷は答えることはできませんでした。
そしてお釈迦様は出家の道を選ばれるのでした。

その後、伽留陀夷もお釈迦様のもとで出家しました。

しかし修行僧としてふさわしくない行為が多く、悪行三
昧まいだったために、お釈迦様が戒律を作ったと言われてい
ます。つまりは戒律という制度はこの伽留陀夷の悪行が
始まりだったのです。

厳しい戒

律に伽留陀

夷は、はじ

めのうちは

不満、疑問

を抱いてい

ましたが、

その後目覚

め、托鉢たくはつを

熱心にする

ようになり、

教化第一の

弟子といわ

れるように

なりました。



エローラ岩窟寺院 (撮影 寺西税)

二十組 暁天講座に感謝

M・M

七月三日、上米野にある真照寺で、講師として三明智彰師を招いて開かれた。

テーマは「ただ念仏（なぜ念仏もうすのか）」でした。

(一) ただ念仏

(二) ただ称える念仏

(三) 念仏のよりどころ

(四) 念仏の心境

の順に歎異抄を引用しながらお話しされました。とてもわかりやすかったです。頭に残っていることを述べますと、

「念仏は浄土に生まれる種である」

という言葉。親鸞聖人が八十八歳の時、関東の門徒におっしゃられた言葉です。

私は、弥陀の誓願を信じて、感謝する言葉が念仏だと思っていました。しかし、念仏を申しておるところに、

すでに『信心決定』があるのだと気付かされました。誰

も行ったことのない浄土。それを信じるも信じないも、

あてにならないこちらの勝手な判断。念仏は、生きる苦

しみをごまかさず受け入れていく智慧であると申されました。

念仏で一日の勤めが始まる（曾我量深）。

これらのことを聞き、感動し、今日は朝からありがたい法話に出合えたことに感謝しました。

同様のことは住職からもよく聞かされていたが、時と場所と人により真宗の理解、受け取り方が違うなとつくづく思った。

終わったころには大雨でした。自転車で行っていたため、帰りはずぶぬれになったが法話の良い余韻に腹も立たず。



平成23年度廣讚寺講決算報告

収入の部	支出の部
前年度繰越金 71,469円	火災共済 42,880円
廣讚寺講費 ^{235名} 587,500円	建更共済 341,000円
貯金利息 38円	樹木剪定 ^他 216,310円
	次年度繰越金 58,817円
計 659,007円	計 659,007円

行事予定

- 九月 八日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)
- 九日(日) 八時 庭そうじ
(昼おとぎ後、解散)
- 十九日(水) 二時～四時 学習会
- 二十二日(祝) 十時 秋季彼岸会
廣 齋教 瀬純史師
讚寺講總會
おかみそり
- 二十三日(日)
- 二十四日(月) 三時 彼岸お勤め
- 二十五日(火) 住職説教
- 二十八日(金) 十時 二十八日講總會
- 十月 十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)
- 十九日(金) 二時～四時 学習会
- 二十八日(日) 十時 二十八日講・女人講